平成25年度「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」（地域会議）

１対１対談（桑名市）会議録

１．**開催日時**：平成２５年８月４日(日)１５時００分～１６時００分
２．**開催場所**：桑名市　桑名市陽だまりの丘　複合施設「ぽかぽか」
３．**対談市長名**：桑名市（桑名市長　伊藤　徳宇）
４．**対談項目**
（１）広域避難施設の建設について
（２）社会福祉士等専門職配置にかかる人件費補助について
（３）市立小・中学校悠分校の県立への移管について
（４）伊勢大橋架替事業の促進について
（５）道路ネットワークの整備について
（６）養老線活性化事業について
５．**会議録**
（１）開会あいさつ
知　事
今日は桑名で石取祭りが開催されている中に、このように貴重なお時間をちょうだいをいたしまして、どうもありがとうございます。
それから、先般、７月16日であったと思いますが、三重県の経営戦略会議を六華苑で開催をさせていただきまして、市長にも昼食懇談にお出ましをいただきまして、どうもありがとうございました。
この１対１対談、来年度の主に26年度の予算に向けて、その編成作業に入る前に市長や町長の皆さんと意見交換や議論をさせていただくということで３年目を迎えますが、伊藤市長とは今回が初になりますので、どうぞよろしくお願いいたします。
26年度のそれぞれの主な案件については、先ほどの要望書、また別途の日程で意見交換をさせていただくということで、今日は６つ課題が挙がっておりますが、そういう意味では26年度に限らず、桑名市と県との間で懸案になっている案件で非常に難しい案件が今日は多ございますので、そういう意味では全部やりますということとか、なかなか難しい部分があろうかと思いますが、それはそれでこういうオープンな場でそれぞれに思いを述べながら、また、これからもその懸案の半歩でも一歩でも前に進んでいくための解決に向けて共に歩んでいくことが大事なのではないかと思っておりますので、そういう意味で今日も有意義な時間にしたいと思っておりますので、どうぞよ

ろしくお願いいたします。ありがとうございます。

桑名市長

ご紹介いただきました桑名市長の伊藤徳宇でございます。

本日は、知事におかれましては、遠いところを桑名までお越しをいただき本当にありがとうございます。

この１対１対談、私、初めてということで本当に楽しみにしていました。同世代ということと、また、同じ県内で頑張っている首長として様々な議論をさせていただければと思っているところでございます。

また、石取祭りの本当にど真ん中に開催をしていただきまして、この後、石取の観賞会にも来ていただくということで本当にありがとうございます。

今日の開催場所「ぽかぽか」ですが、この陽だまりの丘地区に子育て支援のセンターと生涯学習のセンターと、２つの要素を兼ね併せた複合施設として８月 10 日にオープンをさせていただきます。その前に今日はこの１対１対談、ぜひ知事に見ていただきたいということで、この場所で開催をさせていただきました。お互いに子どもを育てながら首長をさせていただいているというところもありますので、ぜひ中もこの対談の後にゆっくり見ていただければと思っております。

先ほど要望書を知事にお渡しをさせていただいて、こちらは別途違う場所でということになっておりますが、今日はその中から特に重要な部分の６つを抜き出しまして、さっき知事もおっしゃっていただきました、なかなか難しい課題もあるということもありました。私たちもそのことは重々承知のうえで、やはり知事の考えもしっかりと聞きたいと思う部分もありますし、その中で解決に向けて一歩ずつでも前進ができるような感じでいければと思っているところでございます。今日はどうぞよろしくお願いいたします。

（２）対　談

１　広域避難施設の建設について

桑名市長

１つ目、広域避難施設の建設ということで、こちらは知事のお考えも伺いたいし、お願いもございます。桑名という地域は、こういう山のほうの場所もあれば、低い地域もございます。特に長島地域は海抜０メートル以下というようなところに輪中があって成り立っている地域もありまして、非常に災害には弱い地域であると考えています。

当然ながら、桑名だけではなくて、この近隣の市町、全体的に海抜０メートル地帯が非常に広い町がいっぱいあります。これは県内でいけば木曽岬町

もそうですし、例えば隣の県でいけば愛知県の愛西市、弥富市、また、岐阜県では海津市と様々なところで非常に海抜が低い場所がございます。

例えばそこで大きな災害が起こった場合、地震、例えば台風が来るという先に情報が発令された場合、おそらくこの低いところに住んでいる方たちは、山のほうに向かって逃げるだろうというのは、多分感覚としてあると思います。その中で桑名だけの避難ということではなくて、近隣市町の海抜の低い地域から逃げてくる場所としての広域の避難施設が必要なんじゃないかということを桑名市では思っております。その広域の避難についての考え方を知事からお伺いしたいと思いますので、よろしくお願いします。

知　事

今、市長がおっしゃっていただいたように、桑名市あるいは近隣の市町は０メートル地帯が多いので、巨大地震のみならず風水害においても、非常に危機感の強い場所だと思っていますし、そのための市長が今おっしゃっていただいたような広域避難という考え方は大変重要だと思っています。

これまでの取組を少しご紹介しますと、去年の８月に県と市町の災害時の応援協定の改定を行いました。その中で今までは県は要請を受けてから応援をすることになっていたのを、主体的に応援もできるようにということと、あと、それ以外の具体的な中身のいくつかの一つとして、避難所の提供について、例えば木曽岬の方が逃げる分に桑名の避難所を提供するということについて、県が市町間の調整をやるというようなことも、今回、応援協定に盛り込んでということであります。そういうまさに広域避難というのを想定しての県と市町の役割の協定の改定をこの前やったと。

そのうえで改定しただけではいかんので、それで具体的にどうしようかということ、今、ずっと順次、県と市町の災害応援連絡会議みたいな課長級だと思いますが、課題ごとにずっとやってきまして、ちょうど８月７日の広域避難のテーマで議論をする日だそうですので、県内の木曽岬とかを含めた広域避難についての具体的な議論を、まずそこで事務ベースでやると。

次は、新たな広域避難施設が必要かどうかということについてですが、まずは、どこにどのように避難するかというのを、一回、具体的にそれぞれの関係する市町と県で整理をしてみたうえで、それで足りない、例えば長島の観光客の方とかを加えて考えたときに、キャパ上、こういうところでこういうふうに問題があるということがそれぞれで認識共有がなされたら、どういうのをどういう場所に建設していけばいいのか、その財源の分担はどうすればいいのかというステップになっていこうかと思いますので、まずは、広域避難において、今のそれぞれの避難所の中でどう調整しきれるかということ

の議論をぜひさせていただきたいと思っていますし、そこからの新たな施設については、次のステップだと思ってます。

それが県内ので、県境の愛知県、東海３県、中部圏の防災の協定はありますが、そこがそういう広域避難を実際にやるとなったときに、具体的な話はまだしっかり詰まっている段階ではないと思いますので、そういう県内の広域避難の調整の議論の進展を踏まえて、中部圏とかの協定の具現化の観点で愛知県などともよく話をして、場合によっては関係の市町の人たちも一緒に入っていただいてというプロセスになっていくのかと思っています。

桑名市長

本当に県内はすごく今いろんな形で中に入っていただいて、うまくやっていただいている部分もあると考えています。我々として一つ思っているのは、県外との話、三重県という単位で考えられますと、桑名は北の端ですよね。ただ、本来我々が生活している面でいくと、私たちの北にも隣人として岐阜県の方が住んでいたり、東の愛知県の方がふつうに住んでて、生活圏としては一つになってます。その中で県境があることで解決しにくい課題になっているんじゃないかという部分も少し思ってます。

それぞれの基礎自治体の間では、例えば愛西市とか岐阜県の海津市さんとは災害の応援協定を結ばせていただいていますが、先日も隣でしたのでいろんな形で顔を合わせる部分もありますが、避難の部分をもう少ししっかり考えていかなくてはいけないというのを、中部地整さんも入っていただいてそういう議論もさせていただいているところです。ですので、ぜひとも知事とは県を越えて愛知県ともしっかりとその話をしていただきたいと思いますし、岐阜県でも岐阜の山へ逃げるよりも桑名へ逃げるほうが近い地域もあります。海津市南濃町というところもありますので、ぜひとも３県でそういう話をしてもらいたいと思います。

知　事

ちょうど近々、東海３県１市での知事市長会議というのがありますので、そのときにでも少し、そこで答えが出るかどうかわかりませんが、問題提起と、全体の協議話題にできるかどうかわかりませんが、過去で言うと三重県で海岸漂着物の提案をして、そこで３県１市で決めた。国へ要望を一緒にして予算付いて、今、伊勢湾を一緒にやっているところですが。下部組織に検討会議みたいなのをつくっている例もありますので、９月の４日だと思いますが、その３県１市で少し問題提起というか、広域避難の部分について、ちょうど岐阜県知事の古田さんが中部圏知事会議全体の防災協定の具現化の担

当の知事さんでもあるので、そういうことも含めて問題意識の提起を今度の３県１市の会議でさせていただきたいと思います。特に県境部分においての全体の応援の順番とかは既に議論していますが、特に県境部分における避難の考え方について問題提起したいと思います。

桑名市長

県境はいろいろ非常に解決しにくい課題があって、今日はたまたま広域避難の話をしましたが、要望書にも入れましたが、例えば生活圏は一緒なわけです。漁業をしている人って同じ川で同じものを捕っているのに、片方は資源を管理していく考え方に立ちながら、片方はどれだけ捕ってもいいというふうな、そういう県をまたぐと解決しにくい課題がいっぱいありますので、ぜひとも三重県の中だけではなくて隣の県との積極的なコミュニケーションを取っていただいて、課題解決に取り組んでいただければと思っています。よろしくお願いをいたします。

２　社会福祉士等専門職配置にかかる人件費補助について

桑名市長

２番目は、社会福祉士等専門職配置にかかる人件費補助についてということ、これは基本的に子ども総合相談センターという部分でこういう人を採っていきたいという思いですけども。私も今子どもがいて、知事のお子さんおいくつでしょう。

知　事　１歳と２ヶ月です。

桑名市長　私、４歳でうちの娘、結という名前です。

知　事　うち、結大という名前です。

桑名市長

僕、結って結ぶ一文字やったんですよ。知事、結ぶに大きいでしょう。負けたと思って。僕、今、２人目を授かって男の子らしいんです。大結大にしようかと思って、負けないようにしようかと思って。子育てをしながらこの仕事に当たることってすごく幸せにも感じるし、非常に難しい部分も感じてます。子どもを育てるって本当に幸せなことだと思うこともあるし、ただ、それだけじゃないなと思うこともいっぱいあります。寝てほしいのに寝てくれない、泣きやまないとか、そういうのを特に我々の世代は子育てに直接携

われる、男性が携わっている部分もあるので、本当に大変な部分も実感しているとこだと思います。

桑名でも虐待の問題が大きくて、昨年、本当に大きな一つ事件が起こりまして、パチンコ屋さんで男の子が一人でいてそこでなくなってしまったという事件もありました。桑名も本当にどんどん虐待に対する相談の声が増えていってます。

元々、子ども総合相談センターというのが 21 年に開設されて、そのときの相談件数が 316 件でした。それが平成 24 年度になって 1,056 件と３倍に増えてきてます。今年もものすごく増えてて、この４月から６月の３ヶ月だけで 600 件以上、今相談が来ていると。

そういう意味で私たちもここをしっかりしておかなくてはいけないということで、先月に「子どもの笑顔を守るまち、子どもを虐待から守る都市宣言」というのもさせていただきました。また、この地域は特に外からここに引っ越してこられる方が多くて、相談がしにくいという方たちのためにも、こういう子育て支援センターをつくって、当然お母さんたちの仲間をつくるとか、ここにいる職員に相談をすると、いろんな形でお母さんたちが孤立をしないように、そういう形での対応をしていきたいと思っています。

今、子ども総合センターは、県の児童相談所とも人事交流をさせていただいて、非常に助かっているところですし、私たちも職員の数をどんどん増やしてまして、今全部で子ども総合相談センターとしても８名を配置してます。このほとんどが専門職の方に入っていただいています。一般職というよりそういう専門職の方に入っていただくことで解決するだろうということで置いているんですが、これからここを我々としてもしっかり力を入れて行きたいですし、また、力を入れることが児童相談所にとっては少し負担の軽減になっていくんじゃないかという思いを持って取り組んでいるところです。そういう意味でこの専門職の方々、特に今、私たちは社会福祉士をお願いしたいと思っているんですが、そういう方を市の職員で採用する際の人件費の補助的な考え方が県にないのかと思って、今回は議題として挙げさせていただいてます。どうぞよろしくお願いいたします。

知　事

桑名市におかれましては、先ほど市長からも紹介していただきましたように、今年度はうちの児童相談所と子ども総合相談センターとの人事交流をやっていただきましたし、我々にとっても大変ありがたいことなんですね。例えば先ほどの市長もおっしゃっていただいた昨年の桑名市における児童虐待の事案においては、お母さんが２人目で産後うつで、母子保健との連携と考

えていくと、市町との連携は欠かせないところですので、児童相談所だけで対応していくことは非常に難しいところですから、そういう形で児童相談所の業務を知っていただき、また戻っていただいて人的パイプもできていって、一緒にやれるのは非常に大きいことですので、人事交流をやっていただいたのは大変我々としてもありがたいと思っていますし、それに合わせて、先ほど市長からも紹介のあった７月には都市宣言も出していただいて、全力で児童虐待への対応をやっていただいていることは、本当に敬意を表したいと思います。

私が知事になる前に平成 22 年に鈴鹿市で重篤な事案があって、そこで 29 の市町の皆さんと一緒になって、市町カルテと言いますが、確認表みたいなのをつくったり、いろんな仕組みをみんなで一所懸命やってきたにもかかわらず、まだその案件が止むことがないことについて、非常に危惧をしていて、今年度から体制も全体で 15 名増強し、相談センターには市町の支援ＰＴとか、法的介入の対応の質であるとか、警察、弁護士関係の人員の繰入とか、そういう形で。あとは、リスク管理を共有するためのシステムの構築と、その中に入れる案件をみんなで共有するということですが、そういうのをやって順にやってきているところですので、そういう同じ世代の首長として、また、いろんな行政の分野がある中で、この児童虐待に対する危機感を強く持つことについては、本当に共感できるところであります。

今も市町の児童相談体制の強化は、毎年、定期協議をやらせていただいてますが、人件費の補助についてどうなんだということですが、これは県というか、私もそうですが、考え方で平成 17 年に児童福祉法が改正されてから、児童虐待の相談業務は基本的に市町でやるものだということになっています。しかし、今の行革とか予算を削ったり税収が厳しくなってきている中で、なかなか人員や体制を確保するのは非常に難しいという状況であると。

一方でこの児童虐待に対する多くの国民の関心も高まってきていて、法律に定められている相談業務をやる市町の体制を抜本的に強化するのは、国家全体の国一律の全体の課題であると私は考えていて、それは昨年の全国知事会でも、私自ら発言をし、今年の春の国への政策要望においても、市町の相談体制の抜本強化のための財政措置を国でしっかりやってほしいと要望したところです。専門職を配置していくのは、まさに市町の職員そのものの人件費になりますので、それを県が 47 都道府県の中で県のそれぞれの判断で出すというよりは、国がしっかりとそこの部分について確保していくことが筋ではないかと、私は法律権限上も思っているので、今はそういう考えの中で国に要望をさせていただいています。

一方で質的向上については、県もしっかり市町のサポートをしていくべき

であろうということで、その専門職の皆さんの研修であるとか、あと、桑名市は、例えば、虐待直接ではありませんが、発達障がいの人たちへの支援のため、あすなろ学園に市町の職員を研修に出していただいて、そこで発達支援の総合窓口をやるために学んでいただいて戻っていただくのも、先陣を切ってやっていただいてきました。なので、人件費、直、県が出すというのは私は法律権限上の考えでも違うのかなと思っているものの、質的向上や連携強化については、しっかり汗をかいていきたいと考えているところです。

桑名市長

本当に質的向上の部分で様々な研修をさせていただいて、私たちの職員も世話になっていることには、本当にありがたく思っています。とりあえず今の段階としては、人件費等については国が対応するべき課題ではないかということで、国に要望をしてもらっていることについても、非常にありがたいと思ってます。本当に虐待に対する相談はどんどん増えてきますし、我々としてどれだけ力を割いても、昨年も起こってしまうという非常に難しいことではありますが。我々としてもとにかく自分たちでできることをやってみようという思いを持っています。

知事はご存知かどうか分からないですが、今、桑名市は赤ちゃん訪問という事業で、赤ちゃんが産まれたご自宅に一人ひとりおじゃまして、どうですかというのをお話すると。今、96%、

桑名市職員

96%です。大体出生数が 1,200 人ですが、最終的にコンタクトが取れないのは数人。これは 1,200 人近くまでは何らかの形でコンタクトをとって接触はしています。

桑名市長

様々に接触することは頑張ってやってるんですが、やはりそれだけでは足りないということで、そこは行政だけじゃなくて、民間の方たちも私たちと要対協というグループをつくっていただいて、どういうふうにしてけばいいんだろうということで、それぞれ議論をしてそれぞれで動きをしているところであります。

確かに今言われたように法律の権限上、国での課題じゃないかというところも一つあると思いますが、ぜひ我々の取組を応援してもらいたいという中で、県さんも子どもを虐待から守る条例を作っていただいてまして、この中で県としても市町の施策や事業、地域の取組なども積極的に支援しなければ

ならないと条例で設けて、わざわざここで書いていただいている。県の責務を書いていただいていることに対しては、僕は非常にうれしいことだし、ぜひとも更なる応援をしてもらいたいと思っていますので、引き続き、国に対して要望をしていただくとともに、県の中でそういうことも考慮していただくと思っております。よろしくお願いします。

知　事

今回、この４月から児童相談センターに市町支援ＰＴというのを作りましたので、どんどん意見交換をさせていただいて、今まさに市長が指摘していただいた条例の部分について、どういう支援がいいのか、個々に違うと思いますね。桑名市の例えばこういうところのような外から引っ越しをしてきて相談をしにくくて孤立しやすいケースと、あるいは、もう少し高齢化や過疎化が進んでいるところとの考え方、支援の仕方は違うと思いますし、ぜひ、そのあたり我々も積極的に取り組んでいきたいと思います。

先ほどの赤ちゃん訪問の件ですが、三重県は地元の桑名市や市町の積極的な取組により、妊娠届出も非常に早く出ているパーセンテージが高いですし、出生届が出るパーセンテージも高くて、それはとりもなおさず市町の皆さん、あるいはそれにご協力いただいている民生児童委員の皆さんのご努力だと思っていますので、そこは本当に感謝申し上げたいと思います。

桑名市長

我々もこれからも積極的に取り組んでいきたいと思っていますし、先ほど知事が言ってもらったように地域によって状況が違います。桑名の中でも新興住宅地と例えば農村地域とは全然状況が違いますので、その辺ぜひ細かい対応をしていただければと思っています。よろしくお願いをいたします。

３　市立小・中学校悠分校の県立への移管について

桑名市長

３はぜひお願いをしたいところもございますが、様々な経緯がございまして、今、情短施設の悠分校は市立となっていますが、こちらは子どもたちの教育の機会の均等、平等性、公平性から考えると、今回、あすなろさんが県立に移管されると伺ってますので、ぜひとも悠分校が、私たちとしては桑名に特別支援学校ができましたので、そこの分校というような形で県立に移管していただけないかという思いを持っています。知事のお考えをお伺いしたいと思います。

知　事

この課題は、今日ある中で最も難しい課題だと思いますし、桑名市さんと県との経緯のみならず、今回、あすなろ学園の整備に伴う緑ヶ丘の特別支援学校をベースとした分校を統合しての新たな特別支援学校ということとの関係もあるので、非常に我々としても難しい課題だし、ご理解いただきにくい課題じゃないかと思っているところです。

したがって、あすなろ学園の整備をしていく、県のこれまで申し上げてきた考え方を改めて少し申し上げますが、それにしても、これからもそこに入っている子どもたちの状況などを情報共有、交換しながら、もちろん今も加配などをやってますので、そういう人的支援を充実させていく、そういう情報交換を共有しながら、今後のあり方についてもよく協議をしていく姿勢でありたいと思っています。

しかし、そこがなんで難しいのかということについては、今までの県の主張にもありますが、市長や市の関係者の皆さんはご案内のとおりでありますが、あすなろの新しくできる特別支援学校については、重度化して高度な医療が必要となる学校教育法上、特別支援学校で対応すべき病弱者にあたる人たち、それから、あすなろは草の実と統合し、あと、三重病院などとの関係で、子どもに対する発達障がいや医療におけるセンター的機能を担っていきたいという部分もあって、津のほうではそういう考え方にしたわけですが。

では、悠分校のほうは、一応学校教育法上の特別支援学級で対応する情緒障がい児童を対象とするとなっているので、今、その中での人的支援、加配などをしながら現状の枠組みの中で支援を厚くしていこうというのが県の考え方でありますが。

とはいえ、実態上は子どもたちの中でもきれいに線引きができない部分もあるというのは十分承知をしていますので、非常に難しい。今の法令との関係や位置づけと、実際に入ってきている子どもたちを見たときに、どういうふうに支援をしてあげたらいいのかという親御さんたちの心配も含めての部分と、非常に我々としても心苦しい、なかなか理解をしていただきにくいだろうと思っている課題であります。そういう意味で人的支援は引き続き継続をさせていただきながら、いろんな情報交換を共有の中で今後のあり方をよく協議をしていくことかと思っています。

桑名市長

本当にこの部分が今回の肝というか、一番大事な部分と我々は思っているんですが。知事もそういう意味では病弱者と情緒障がいというとこで、今回、

ある意味線引きをされましたが、実際に線引きは難しいだろうというご認識をいただいていることは、非常に我々としてはそういう理解をしていただいていることは、非常に評価したいと思っています。

実際、悠分校に行かれている子どもたちでも、当然専門的な医療が必要な子たちはたくさんいます。そういう意味で線を引くのはいかがなものかという我々市の考え方です。

それから、もう１つは、市立学校ではありますが、桑名に原籍校がある子はほとんどいない。今現在で 1 名となっています。そんな中で特に県外から来られている子も非常に多いと聞いています。ある意味、それで考えると県立でも国立でもいいんじゃないかというぐらいの考え方で私たちはいますが、そういう意味では、今すぐに跳び越えてあすなろさんと同じようにするのは難しいとはおっしゃっていましたが、引き続き、ここについては我々としてはまずは県立学校として認めて移管してもらうのが正しいのではないかということは、これからも要望していこうと思っていますので、そのときはぜひともご検討いただきますようお願いします。

４　伊勢大橋架替事業の促進について

桑名市長

この４とかも、ある意味同じ思いで取り組んでいけることなのでいいんですが。ご存知のように伊勢大橋、国道１号線に架かっております伊勢大橋の架替えの促進につきまして、県としてもぜひ応援をしていただきたいということでございます。建設から 79 年が経ちまして、マスコミのほうでも笹子トンネルの後は橋が落ちるとしたらこの橋だみたいな形で伊勢大橋が非常に取り上げられるほど、今、老朽化も進んで交通量が多い橋になっています。

今回、この間の国の予算で架替えについて、まず、地盤改良ということで桑名の長島側の地盤改良のための予算と補償の調整のための予算を 12 億円ほど付けていただきまして、本当に我々市民としては、特に災害に対してずっと不安に思われた長島地区の方からすると、本当に悲願の予算が付いたと思っています。これから様々な補償の調整等もあるので、まだすぐにはいかないかもしれませんが、我々としても全面的にサポートして橋を早く架けてもらいたいという思いで取り組んでいきますので、ぜひとも県にも力を貸していただければと思っておりますので、よろしくお願いします。

知　事

この国道 1 号の部分は、先ほど市長からおっしゃっていただいたので現状は私は繰り返しませんが、本当に桑名市さんも一所懸命国交省など要望をし

ていただいて、我々も一所懸命これまでも要望してきた結果、22 年度 23 年度 24 年度は事業費も１億２億３億というところでありましたが、25 年度、12.28 億円ということになりました。そういう意味でこれからは一つ端緒が開きましたので、これは県会議員の先生方も含め多くの皆さんのご尽力によるところだと思っていますので、一致団結して行っていきたいと思います。

早速、私のほうは８月８日、東京にまいって新しい国交省の次官、技官、道路局長に表敬訪問という名の要望にいくことにしていますので、この案件もしっかり入れて、我々の三重県の主要要望道路についてお話をしてきたいと思っています。

それから、私のこの７月 22 日付で高速道路のほうですが、全高速という高速道路１万 4,000 キロの整備をしっかり進めていこう。その財源をしっかり確保していこうという全国の期成同盟会が会員になっている会、46 の県が入っているものですが、全体の道路整備、インフラ整備を特に災害との関係で必要な部分について進めていこうという会議の副会長になりましたので、全体にも貢献をしながら、自分とこだけを言うんじゃなくて、全体の財源確保などについても強力に力を発揮しながら、ここの部分についてしっかり皆さんと一緒に個別の部分についてもお願いをしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いをいたします。

桑名市長

力強いお言葉でありがたいと思っています。県内の話でいくと、北勢は当然防災のことも一つで、もう一つ産業の振興でも道路は非常に大事なものであると考えていますので、ぜひとも今後、桑名のことでよろしくお願いしたいと思っています。

５　道路ネットワークの整備について

桑名市長

県道御衣野下野代線という路線についての話になります。北勢地方は県内でも産業の中心として道路ネットワークをしっかりやっていっていただきたいと思っている中で、この御衣野下野代線というのは、様々な企業がここにくっついている道路ではありながら、なかなか地元の調整がつかなくて、今まで予算化がしにくかった道路かと思っています。富士通さんはじめ、これは桑名市だけじゃなくて南のトヨタ車体さんであるとかデンソーさん、神戸製鋼さんなど大きい企業さんが道にはくっついて、この人たちが国道 258 号線に出るためにこの道は本当に重要な道路になっています。逆に言いますと、そこがうまく通せてないがゆえに、今、桑名市の住宅地を大きなトラックが

走るという状況になってまして、東西のアクセスが本当に重要になっているところです。

先ほど申し上げた地域の調整が取れない部分というのは、養老鉄道を高架化して、また、道を引くときに集落のど真ん中を走らせると。集落のコミュニティーが分断されてしまうということで、なかなか地域の方のご理解が得られにくかった道路なんですね。ただ、今、そこの道路がクランクというか非常に走りにくい道路になっているので、大型車が走りにくかったという部分の道路について、ルートの変更も含めて抜本的に見直していただいて、早急にここの整備ができるように取り組んでいただきたいと思っています。我々もそこに向けては精一杯努力をしていきたいと思ってますので、ぜひ、新しいルートも含めて御衣野下野代線の整備を早急にお願いしたいと思っています。

知　事

今の御衣野下野代線についてですが、今、そういう意味で桑名市さんと県の建設事務所で議論をさせていただいて、要望いただいて、事業を進捗させている箇所がいくつかあると思います。四日市多度線の力尾地内であるとか、多度長島線の橋の架替えと前後取りつけ道路であるとか、桑部橋南交差点の渋滞緩和の整備であるとか、こういうような事業着手している箇所の進捗状況を勘案して、今の御衣野下野代線についてどうしていくかということを地元の方々や桑名市さんとよく協議・調整を行っていきたいと思っています。その中身に今おっしゃっていただいたルートも含めて、どういう形でやっていくのがいいのかという議論をさせていただければと思ってます。そういう意味ではたくさん桑名市さんから県の建設事務所にご要望をいただいている中で、これがトッププライオリティーであるとするならば、優先順位の中でこういう道路の整備は、地元の思いとあとは技術的なものと、どれぐらいの整備費がかかるかといういくつかの要素があろうかと思いますが、それにしても市においてプライオリティーがどういうものかというのは、この道路整備において最も重要な点でありますので、建設事務所と引き続き、今、事業中の箇所をしっかり仕上げていくのが最も大事なことだと思いますので、その進捗状況を勘案しながらどういうふうにすればいいのかという議論を引き続きさせていただければと思っております。

おそらく去年も桑名市さんからご要望をいただいたんじゃないかと思っておりますので、我々もそれを認識しておりますので。

桑名市長

去年と今回変えたのは、去年はおそらく地域の中での話し合いに建設さんに入ってくださいという話だったと思うんですが、ここを新たにそこではないルートでこういうルートにすればおそらく交渉はうまくいくんじゃないかというルートの変更でお願いしたいと思ってますので、ぜひとも我々としては結構プライオリティーが高い道路だと思ってまして、我々として優先順位をしっかりつけたうえで、もう一度建設事務所さんとお話をさせていただきたいと思っています。

そのときにもう一つお願いが、今、養老鉄道を高架にするという話をしてました。確かに高架にすると非常に利便性は高くなると思いますが、この後、話が出てきますが、今実際に養老鉄道自体は 30 分に１本から 40 分に１本という鉄道の時刻表になってしまってまして、逆に言うと高架にしなくても鈴鹿の市役所の前にあるような踏切信号みたいなので、青なら行けるというようなものにしてしまったほうが利便性も高いし、おそらく費用的にも大分収まるんじゃないかという気もしてますので、これは建設事務所さんと進めていろんな話をしていきたいと思っています。よろしくお願いします。

６　養老線活性化事業について

桑名市長

桑名市は鉄道として地方鉄道２つあります。１つは、北勢線、それから、養老鉄道です。元々、私たち基礎自治体としての考えとしては、鉄道って一つの自治体の中で走っているものは少なくて、自治体同士を結ぶ交通網だと思っているので、ぜひとももっと県さんにいろいろ応援もしてもらいたいし、しっかりと責任も果たしてもらいたいという思いがあります。

その中で今回、養老鉄道というのは、北勢線は三重県の県内だけで走っているんですが、養老鉄道は岐阜県と三重県を結んでいる鉄道ということで、これも県境だからなかなか難しい部分にもなってくるかと思います。養老鉄道は経営状況が非常に厳しくて、北勢線は乗客も増えていってるんですが、養老鉄道はどんどん減っていく一方だという状況です。私も高校生のときにずっと乗っていた電車なんですが、今、名古屋に通う人が養老鉄道に乗らなくなってきています。例えば近鉄とかＪＲの長島駅で私が選挙のときにチラシを配っていると、私知らないわと言われてしまって、なんやと思ったら、私、岐阜から車でここに来ているんですと。堤防を使って岐阜の海津とか多度のほうからというのは、長島駅まで直接行ってしまって、そこの駐車場のニーズが非常に高くなってどんどん駐車場ができていく場所になってます。やはり桑名まで出て名古屋に行くのが逆に減ってきてしまっているなと自分としても感じているところです。

なかなか厳しい養老鉄道ではありますが、しっかりと応援していきたいということで、沿線市町はそれぞれ今頑張って、当然お金もそこに出して応援をしているところですが、年間９億円の赤字が今出ているそうです。

ここの養老鉄道の活性化、沿線市町の首長の会議がございまして、その中で岐阜県さんが鉄道を応援するための補助金を創設をされて、この養老鉄道にも 5,700 万円も出していただけるという話がこの場であって、養老鉄道の沿線市町の中で唯一私だけ三重県の人間で、しっかり桑名市さんもちゃんと県さんにしっかり応援するように言ってもらわなくちゃいけないじゃないかと、その会議でも言われているような状況でもあります。

ぜひとも県として地方の皆さんの足としての鉄道について、今、どういう考えでおられるのかというのと、あと、具体的に養老線に対して補助金をつけてもらえないかということを２つお伺いをしたいと思います。

知　事

人口の分布の有り様や今後の人口の減少、あるいは道路の整備の進捗、あとは、もう少し先でいくとリニアの問題も出てくることとかも考えて、三重県として地域交通に対してどう臨んでいけばいいのか。そして、その中で県という広域自治体はどういう役割を果たしていけばいいのかという総合交通ビジョンの審議会を立ち上げまして、議論を近々していく予定でおります。これはそういう様々な交通手段の整備の進展と、一方で国が例えば平成 23 年度に地域内、例えば桑名市内だけ走っている地域交通バスとかに対して今まで補助は出してなかったんですが、23 年度から国が出すようになりました。というような形で、国の地域交通を支える役割にも変化が見えてきている中で、国と同じことをやればいいのか、それとも県は違う部分を補完すればいいのか。うちは今はバスについて言えば、国がそういう地域内のものについても一定以上出すとするならば、県内の地域間を結ぶバスなどについての支援を行っていこうじゃないかということで、考え方、バスについては別途、各市と協議会をやらせていただいてますが、そういうふうに考えていますので、今、我々もこれからどういうふうにしていけばいいのかというの、これからもう少し構築をしていきたいと考えている中で、鉄道に対しては、従来、特に運営の部分については財政支援をすることはないと。やはりハードで維持更新だったり、新設だったりという部分について出すということをしてきました。それから、あと、大手民鉄は除くとしてきました。

そういう意味で、今回、岐阜県さんが養老鉄道に対して、養老鉄道自体は全部で 27 駅あって、岐阜県が 22 駅で三重県が５駅という部分があるにしても、岐阜県さんがどういう考えで、これからどういうふうに養老線の支援を

考えていきたいのかということを、まず調査をさせていただきたいと思っています。特に岐阜県の地域公共交通協議会というものと、あと、三重県も三重県生活交通確保対策協議会というのがあるようですが、両方役割が違うようであるんですが、岐阜県の交通部局の今後の考え方も少し調査をさせていただいたうえで、沿線市町の皆さんとも議論をさせていただければと思っていますが、短期的にすぐ解決、私今、申し上げたような総合交通ビジョンも走らせていきたいと思っていますので、この1対1対談は主に26年度のことがメインでありますので、おそらく桑名市さんからのベストは、26年度予算編成で岐阜県同様の補助が出ることだろうとは思いますが、そういう意味では少し岐阜県の調査、総合交通ビジョン全体も考えていきたいので、26年度予算には間に合わないのではないかということはご理解いただければと思いますが、おっしゃっていただいたような岐阜との関係調査はしっかりやっていきたいと思います。

桑名市長

岐阜のことはぜひ調査をしていただいて、お願いをしたいと思っています。

我々も大手の鉄道会社は除くという国の方針が納得がいかない部分もありますので、もう一度、我々も市長会を通じて国に対して要望をしているところです。あと、少し申し上げたのは、養老鉄道に名古屋に通う方が乗りにくいというか、乗らなくなってきているという実状に私は実感があります。

その中で、逆に三重県に通う方にはぜひ乗ってもらいたいという思いを持ってまして、桑名市役所に勤務している公務員の職員の皆さんにもなんとか乗って残すように頑張ろうということでお願いをさせてもらっているので、ぜひ、県の職員の皆さん方、学校関係者の皆さんにも、近隣の方がおられましたら、ぜひとも乗るようなことを周知徹底していただけると助かると思っております。

知　事

おっしゃるとおりですね。養老線に乗りましょうというだけを言うのは難しいんですが、北勢線も乗ってもらわないといけないので。要は公共交通機関を利用しようということについては、一応毎週水曜日をノーマイカーデーにしているのもありますが、もう少し僕は、元々、スタートは地球温暖化の関係だったんですが、僕自身は行政の職員自身が別途道路の予算とかをかけて渋滞緩和に税金を投入しているのに、その渋滞のプレーヤーになるようなことではあまり良くないのではないかと。むしろ、公共交通機関を率先して利用していくことのほうが、いろんな意味でいいんじゃないかと個人的には

思っているので。そういうことを職員のみんなにもいろんな手法で伝えながら、公共交通機関を利用していこうというＰＲ活動というか、そういうのをぜひやっていきたいと思っています。

桑名市長

ありがとうございます。本当に公共交通機関に乗ってもらうのはものすごく大事な時代になってきてて、なくしてしまうと、次に復活といってもおそらく無理なのはこの鉄道と思ってますので、これは一緒にタッグを組んでというか、当然職員にも啓発しながら、また、県民の皆さんにもお願いをして啓発をしていくということをしっかりとやっていけばと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（３）閉会あいさつ

知　事

今日は貴重な時間をありがとうございました。

冒頭に私も、市長もおっしゃっていただいたように、難しい課題もあるけれども、しっかりと連携をして協議をして、胸襟を開いて意見を交わしていく。あるいは、課題によっては、しっかり分担をしながらやっていく。また、一緒に力を合わせてぶち当たっていかなければならないものについては力を合わせていく。そういう３つのパターンの話が、今日、それぞれの議題にあったんじゃないかと思っております。そういう意味で一致団結するとこは一致団結し、そして、連携するところはしっかり連携して、また、分担するところはしっかり分担しながら、いずれにしても市民や県民の皆さんが喜んでいただけるように、今日の難しいいろんな課題も含めて、ますます意見交換や協議をしていかなければならないことが明らかになったのは間違いのないことですので、どうぞ市長をはじめ市関係者の皆さんも、ぜひともよろしくお願いをしたいと思います。

また、傍聴に来ていただきました皆さんも、三谷県議も特にお忙しい中にどうもありがとうございました。

今日はありがとうございました。